房総のウラナミシジミ
(2) 特殊なる移動[1)]

根本 末[2)]

Lampides boeticus in Bōsō district (Chiba Pref.)
(2): Characteristic Migration

By SUE NEMOTO

野村博士は房総南部に於ける研究より本種の移動が正常なるものの外に，特殊なる移動を行うものがあると指摘せられ(1954)，これについて磐瀬太郎氏は，体脂肪をエネルギー源として一挙に何百キロも長巨離飛行をする個体があるだろうと推定されている（1956）が，その後本問題について疑問解明へ進展したことを聞かない．以下推論の域を脱せず軽卒の憾があるが，疑問解明への一段階として敢えて私見を述べて見たい．

磐瀬氏には常にご指導いただき，気流に関して気象庁産業気象課長大後博士，鹿児島県立鶴丸高校小倉一郎先生のご指導を仰ぎ深く感謝致します．

1　気流

この長距離飛行を可能にするものは，発進地と移動先を結ぶ気流があるのではないだろうか．該当個体の体構成を知ることにより何等かの手懸りを得られるかと考え，新昆虫ムシペン等より当時の記録者へ照会したが一通の回答も得られなかった．幸にもこの度磐瀬太郎，白畑幸太郎，弘前大学室谷洋司各氏より若干の資料を得ることが出来た．即ち

県	年月日	個体	地名
青森県	1959. 8.23	1♂	三厩村竜飛
	1955. 8.16	3	〃
	1961. 8. 6	1	〃
	1958. 8. 8	1♀	小泊村
岩手県	1951. 8.25		盛岡市
宮城県	1958. 6.15	1♂	船岡館山
	1956. 8.25	1♂	〃
福島県	1956. 8. 2	1	玉川村
	1957. 7.15	1♀1♂	平市
山形県	1960. 8. 9	1♀	西田川郡大山町
	1958. 8.19	1♂	〃　〃
群馬県	1960. 8. 7		丸沼湖畔
長野県	1960. 7. 6	1♀	小県郡真田町

室谷氏によれば以上の青森県の個体は平常のものより稍々小型であるという．同氏はこれについて次のように述べている．

「これ等の記録は，本州西の北端竜飛岬近傍である．……竜飛の持つ地域的な特性があると考える．……スミナガシ，クロアゲハと共に南方の蝶が入り……之等は海流による環境上のなにものかが存在するものと思われる．……」。採集も盛に行われる青森市附近その他に全然見られないという点に注目を要すると思われる．之は蝶の意志(？)のみに基いて行動するものではなく，自力以外の何等かの力が加わっているものと考える．その力とは何か．私は之を気流と考えているのである．関東の発進地と東北の到達地の間の気流の関連性について，推定発進地の一例を清澄山南面にとれば，房総の台地は北に低く，南に高い．その最高点が清澄山東西の線である．その南面は断層の影響にて急傾斜を以って海岸に接している．

7—8月頃のこの地方は東南の海風が吹きつけている．風道となる谷に於ては，息の強弱により瞬間風速10米を超す場合も珍しいことではない．この山谷風は沢沿いに吹き上げられ，尾根を越して行く，熱せられ水分を多く含んだ海風の場合，この熱をエネルギー源として上昇気流となることは考えられる．この吹き上げられ上昇した気流は季節風として北に向うものがこの時期に卓越する風系である．

この気流は地上の地形により流れを乱されることは，航空気象に知られるエアーポケットの現象として知られ

1)　房総北部に於けるウラナミシジミ(1)促成サヤエンドウの被害を中心として（植物防疫：15 (8), 1961）

2)　千葉県印旛郡印西町木下仲町

るところである．この気流の乱される地が到達地で，之が福島県の，或は青森県の特殊なる移動個体の発見される地ではないだろうか．この風系を考える場合，その発進地は案外越冬地に近いのではないだろうか．

夏の山谷風は上昇することなく陵線沿いに越して行くと言われるが，地形及び気象状況によっては上昇することを観察している．

2　移動し易い個体（世代）

夏の季節風によりウラナミシジミが吹き上げられる可能性に就いては，以上にのべた気流による説明のみでは充分でないと思う．私は更に次のように考えたい．

7～8月頃の成虫はその後のものに比して飛翔は極めて活潑で短距離ながら100米を5～10秒位の速さを以て飛翔し，慣れないものにはウラナミシジミとは思われない飛び方である．前翅長も中位であってその後に見られる大型のものは見られないし，又甚だしい小型のものも見られない．これは明かに食草の成分との関連を考えて見るべき一つの鍵である．

野村博士によれば，最近の研究により飛翔し易いバッタは，冬期枯草を焼き払った草地，即ちカリ分の多い草により生育した個体に多いという．イチモンジセセリの移動は第3化成虫であるが，この時期のものは水稲により生育するもので，農業技術研究所によれば特に多窒素株に好んで集まるという．この傾向はウラナシジミにも見られるところである．

土壌成分或は，栽培作物の施肥関係等より，食草の含有成分により，生理的に飛翔し易い個体（或は或る地域に於ける世代）を生じていると見られないだろうか．

窒素成分を多く吸収した食草の成分の変化，之を食草とした場合の生理的変化等，私の浅薄な知識を以てしては之以上進展することが出来ない．

「7—8月初旬頃の個体には，その地に於ける食草の影響より飛翔し易い体質のものを生じている．」と解したい．

3　関東平地に見られるものに就いて

1959. 6.19　1♀　千葉県銚子市

1960. 7.10　2♂　〃　柏市

之等を一般に特殊なる移動と見ているものが多いようであるが，之に就いては別に報告したいと思うが，房総北部のこの時期のものは第3移動波と，第4移動波の混合と見るべきである．

1960. 5. 6　北区稲付　岡田朝雄氏　　1960. 6.13　新宿区　朝比奈正二郎氏

1960. 5.22　〃　〃

之は特殊なるものと見られると思う．然しこの場合のものは東北方面へ現われるものとは質的に趣を異にするものと考える．この平地方面へ現われるものは正常なる移動群の枠から飛び出した個体と見るべきではあるまいか．産卵，求蜜行動の飛び離れて拡大したものと見るべきものと考える．

1960. 7.20　1♀　本栖湖畔　松浦寛子氏

の例も地勢より推定して上記の場合に該当するものではないだろうか．

リュウキュウムラサキが台風進路の東側に現われたものは，パラオ系のものではなく蘭印系のものであるという（国立科学博物館黒沢良彦氏）

以上を要約すれば

「7—8月初旬頃の成虫中には（特定の地域のものであるかも知れない）食草成分の関係より飛翔し易いものが生じ，之が地形と気象状況によって生ずる上昇気流によって運ばれ，この気流が地上の地形に依り生ずる気流の乱れによって着地する」

特殊なる移動の記録を報告されているものは非常に少いが，この条件の揃うところ静岡，愛知，三重，和歌山，四国及び九州各南部等数多い．そして各地と北方各地を結ぶ風系を考えるとき広く各地に見られる現象と思われる．本稿に対するご批判と共に，広く各地の記録をお聞かせ願いたい．

参　考　文　献

沼内　真外　　季節風　59, 10　地人書院

野村健一，山田隆保　(1954)　ウラナミシジミに関する研究　(I)　応用昆虫10(2)

磐瀬　太郎　(1956)　ウラナミシジミの特殊なる移動　新昆虫　12(4)

室谷　洋司　(1961)　青森県のウラナミシジミ　青森の蝶（青森蝶同好会）4

根本　　末　(1961)　房総北部に於けるウラナミシジミ　植物防疫　15(8)

シベチャキリガの採集記録

山　根　正　気[1)]

Second record of *Perigrapha circumducta* Lederer in Japan

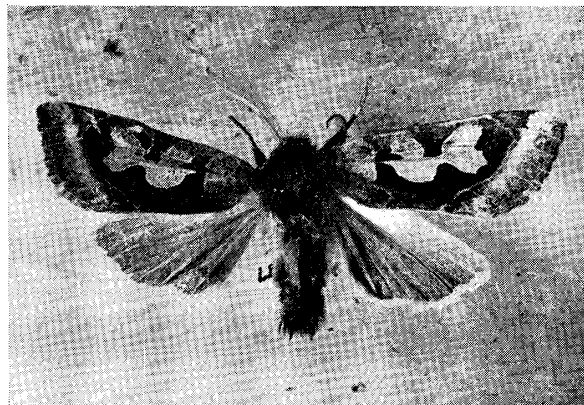
By Seiki Yamane

シベチャキリガ *Perigrapha circumducta* Lederer は1958年飯島一雄・緒方正美両氏により初めて北海道釧路国標茶(シベチャ)町から記録されたヤガで[2)]，その時の報告によりますと「過去10年間にわずかに4頭を採集した」というほど珍らしいものだそうです．この記録以外にシベチャキリガが採集された報告はないようですが，僕は1頭の♂を採集していますので，ここに報告します．

採集年月日　1958年4月20日

採　集　地　札幌市郊外三角山

採集場所の状態　晴天，雪が少し残っていた．

おわりにいろいろ教えて下さった緒方正美氏にお礼申し上げます．

1)　札幌市琴似町宮の森317　　2)　飯島一雄・緒方正美（1958）蝶と蛾 9 (2)：30

和歌山市でとれたギンモンウスキチョウ

白　水　隆[1)]

A record of *Catopsilia pomona* from Wakayama-city

By Takashi Shirōzu

ギンモンウスキチョウ *Catopsilia pomona* Fabricius はこの数年来，頻々と日本各地でとれるようになったが，和歌山県下では未だ発見されたことがない．私は和歌山県加太中学校の後藤伸先生より同校生徒が加太で採集した標本の寄贈を受け，その記録を依頼されたので，簡単にそのデータを書留めておくこととする．

和歌山県和歌山市加太（淡島神社付近），1♀，1961年8月10日　西田誠一君（加太中学校3年生）採集．

この♀は百日草の花に飛来したものを採集されたという．資料を贈られた後藤伸先生，同先生の依頼により福岡まで標本を届けられた湯川淳一氏に深謝する．

1)　福岡市大坪町1丁目　九州大学教養部生物学教室